

# 有機健康 つうしん

遠赤青汁通信 (H29.8.1発行)

夢の桜ロード！平和を願う陽光桜の想いは繋がっていきます。

**遠赤青汁株式会社**

〒791-0398 愛媛県東温市則之内甲2225-1  
TEL フリーダイヤル **0120-148-162**  
ホームページ <http://www.enseki.com>

ミャンマーに陽光桜を！  
交流の輪が広がっています。

今年一月は「桜祭りミャンマー」を初めて開催し、日本の陽光桜を植樹しました。来年の一月十四日に開催が決定した「桜祭りミャンマー」では、さらに二百本がネピドーの大統領官邸まで植えられています。ミャンマーでは観光に力を入れており、今後は温泉等観光地に桜を植え、日本人はもちろん多くの外国人観光客を呼び込み、開かれた国づくりを目指します。そのために接ぎ木の勉強をし、現地で桜を増やす繁殖の方法を学びたいと要望を受け、高岡が技術交流に参りました。



都市開発委員会の皆様と技術研修に出席する高岡(前列左から三番目)。桜祭り執行委員会のイェ・トゥン・ウー氏(前列一番左)。職員の皆様は1月に植樹した陽光桜を、育ててくださっています。



桜祭り執行委員会のイェ・トゥン・ウー氏(正面左手)には前回の植樹の際も通訳をお願いしました。今回の勉強会成功のため事前に来日され、直接陽光桜の苗木を見て、学んでいただきました。感謝しています。



ホワイトボードに絵を描いて説明し、さらには苗木を触りながら、ポイントを押さえて伝えます。真剣なまなざしに、高岡も感動したと話してくれました。

陽光桜の苗木は、別の桜の木に接ぎ木して育てています。もともと、交配して育てた桜ですが、種から苗木を育てるのはとても大変で高い技術が必要です。接ぎ木した苗が現地で育つか、心配もありましたが、挑戦してみようと考えました。高岡は陽光桜の生みの親である亡父高岡正明と共に、かつては造園業を営んでいました。中学生の頃から家業を手伝っており、庭づくりをはじめ、栽培育成に渡り、造園技術を極めていきます。

「初めて目にする接ぎ木の技術を習得しようと、非常に積極的に質問をいただきました。その意欲に大いに感心しました。」  
平和を願う陽光桜の花を、ミャンマー中に咲かせたい。その想いと共に、これからも協力を続けたいと思います。



細かい注意点も聞き逃さず記録しようとスマホで写真を撮りながら、熱心に聞き入る都市開発委員会の方々。女性もいらしゃいます。皆さん、目つきが真剣そのものです。

## 陽光桜、元気に育っています。

今年一月に、植樹した陽光桜に会いに行ってきました。(有機健康つうしん三十七号で紹介)

約半年が過ぎ、暑さや水の不安など気になっておりましたが、無事にしっかりと根付いており、私の背の高さを越えるほど成長していました。葉もしっかりとついています。

日本とミャンマーでは、気候がずいぶん違います。熱帯モンスーン気候で、首都ネピドーは、冬は夏と比べ雨量が非常に少なくなります。年間を通じて気温は二十五度を超える暑い土地柄です。五月から九月にかけて、月間降水量も最高で六〇〇ミリを越えるとは言え、雨が少ない時期も長く、暑さにも寒さにも強い陽光桜ですが、その成長が気になります。今回、管理を行っているネピドー都市開発委員会の方々に、陽光桜の特徴や育成の方法などをお伝えしました。元気な美しい花を皆様にお見せるために、私の知識や技術が、お役に立てればと願っています。



今年1月に国会議事堂へ続く道路の周囲に植樹した時は、苗木もこのくらいの背丈でした。



今回、苗木の成長を確認に参りましたら、高岡の背丈を越えるほどに大きく育っていました。葉もたくさん繁っています。嬉しいです。

都市開発委員会の皆様のご尽力で無事に成長を続けています。来春には花を咲かせてくれると期待も膨らみます。

高岡の右手隣りは、MR.TAING KYAW (局次長、ネピドー都市開発委員会)

今後、ヤンゴンの旧国会議事堂まで桜を植えていく計画が続いています。  
陽光桜のロードが、ミャンマー全土に広がって参ります。国民の皆様は平和の想いが届くことを願って、今後も出来る限りの協力を行っていききたいと思います。感謝  
(代表取締役 高岡照海)



ホテル観光省事務次官とがっちり握手。今後は、観光地にも陽光桜を植樹していきます。一緒にがんばりましょう！

# 農地再生に

## 挑む

初夏の日差しが非常に厳しい五月下旬の土曜日、「収穫祭」が行われました。私達社員他、遠赤青汁の地元にある東温高校生、日頃からお世話になっている作業所の皆さんも参加して、総勢八十名での作業となりました。

にんにくの収穫は素人なので、高校生達と一緒に、最初に掘り取りの手順を教えてくださいました。トラクターで掘り起こされたにんにくを拾い、集めていきます。丁寧に掘り起こしを進めていても、まだ土の中に残っているにんにくもあります。まわりの土を掻き分けて、探しながら作業を進めました。自分では全部掘り起こしたつもりなのですが農場のベテランさんから見ると穴だらけ。「まだようけ土の中に残ってるよ。」と何度も指摘されながら作業を進めました。



この日は初夏を思わせるほど暑いなかでの作業となりました。水分補給の休憩は必須です！



にんにくの白さや、大きさに感動してか、一喜一憂する高校生たち。収穫に慣れた私達は失ってしまった感動なのでしょうね。見ていて新鮮です。



にんにくは、掘り取りながらキャリーと呼ばれる集荷箱に入れられていきます。軽四トラックで農場の中を走り、積み込んでビニールハウスで一時保管します。男子高校生達が積み込みを手伝ってくれて作業も早くすみ、とても助かりました。

「農地再生に挑む」では、放置された農場を再生し、有機園場として生まれ変わる様子をシリーズとしてお伝えしていきます。

高校生達は彼らなりに方法を考えて工夫していました。二人一組になり発掘担当と拾い集める担当と分担制にするチームもあれば、エリアを決めて全員一斉に作業し、掘り残しを防ぐために、まず土の表面に見えているにんにくを拾い集めて、二回目に土を掘り起こしながら収穫をするチーム。それぞれのチームが効率的な作業を目指しました。

今回の参加は男子学生ばかりでしたから、とにかく元気。炎天下のもと、作業時間の経過と共に元気を無くして無口になっていく大人と対照的に、ずっと声が聞こえてきます。大きな石を見つけて「おっ」。不格好なにんにくを見つけて「何これっ」など、女子高生さながらの明るさです。引率の先生に聞くと、「校内とは違った距離での活動に生徒達の違った一面が見えました。収穫祭のお陰です。」とほえんでいました。

昼前になり作業のペースが若干落ち、

疲れが出たのかと思っていたら、お弁当を食べた元気を充電。午後からは、収穫したにんにくが入ったキャリーを集める作業も手伝ってくれました。にんにくが詰め込まれたキャリーの重さは約十五キログラム。それを二段にしてトラックに積み込みます。普段、キャリーは一個ずつで運びます。何回も往復して運びますし、持ち上げる時に腰を悪くする危険もあります。到底、二段は重くて私では持ちあがりません。やはり若い、軽々と運びます。

自宅でも農業というか土に触れることはあるのかと聞いてみたら「農園の土に触ったのは幼稚園以来で、家に畑は無いので農作業とかも無い。にんにくがこんな育ち方をするとは知らなかった」と話してくれました。これから社会に出て行く彼ら。こうした出会いによって、農業だけでなく仕事全般に違う興味が出てくると嬉しいです。私も初めてにんにくの収穫に参加しました。お客様にも、見て触って感じた想いをお伝えしていきたいと思えます。(営業部 久保)



## ベトナムからルーキー登場です。

五月に入り、新しくベトナムから研修生が二名参りました。

グエン・ティ・トゥエツト・チンさん(右)とゴック・ティ・クエさん。チンさんがクエさんより少しお姉さんなこともあり、落ち着いたような印象です。



ミャンマーから来ているトンさんも、年齢の近い彼女たちが来て、先輩としての自覚が出てきたのか、率先して声をかけてくれます。もちろん日本語で。ちょっと雰囲気が変わって、頼もしいです。

若い彼女たちが目標としているのは、以前弊社で働いていたチュンさん、ズンさんです。ベトナムで活躍する二人のように、自分たちも日本で学び、国に戻ったら、バリバリと働くかっこいい女性になりたいそうです。

研修生はこれで五名になりました。女性ばかりで、寮は毎日賑やかです。ベトナムからの先輩、ハ一さんがいるので、ついつい会話話がベトナム語に。農場の仕事にも慣れるため、早く日本語を覚えたいといけませんね。これから頑張ります。



# EVENT

## 「ヘルスフードエキスポ」

(二〇一七年五月二十四日～二十六日)

東京ビッグサイトで行われた「ヘルスフードエキスポ」は、国内だけでなく海外からもバイヤーが多く訪れる展示会です。

青汁は認知度が高いものの、その味から苦手意識を持つ方も多く商品です。試飲してもらうと「思っていたより飲みやすい」「これがケールの味?」「今飲んでるのよりいいね」等、好印象に変わります。今回の展示会でも、積極的に飲んでいただくように取り組みました。



いろいろなジャンルのお客様がいらっしゃいます。若い方にはぜひ、青汁の良さを知っていただきたいと高岡も熱心に話しかけます。



身振り手振りで説明する高岡。伝えようとする意欲は迫力満点です。

今回、初めて展示会に参加しましたが、普段行っている百貨店の販売とは勝手が違いました。お客様からの質問も、データやエビデンスなど詳細に確認されるものが多く、自分ではうまく回答が出来ずタジタジになる事もありました。社長や先輩にアドバイスをもらいながら説明をすることも多く、まだまだ知識・経験が足りないと感じました。

(営業部 久保)

## 藍住町にんじん祭りに行ってきました。



徳島県藍住町は、にんじんが特産品です。街の特産品を生かした商品研究に一年より協力しています。

四月十二日には、藍住町にんじん祭りが開催され、にんじんを活用した「にんじん青汁」を試作し、無料試飲会を実施しました。

にんじんパウダーを使った菓子も展示して、その活用について町民の皆様にご提案しながら、試飲や試食の感想など、ご意見を集めてまいりました。

ももとの素材の良さを生かし、活用方法を探ってまいりました。粉末に加工すると、本来の甘みがさらに増し、ほっこりとした気分になります。

弊社の加工技術と、それぞれのアイデアを持ち寄って藍住町にんじんを皆様にご紹介いただける新商品づくりを目指します。



にんじんパウダーを使ったお菓子に、思わず女性の足も止まります。「にんじん青汁」も試飲していただき、ご説明させていただきました。



## 四国八十八箇所 八十六番札所 補陀落山 志度寺

(ほだらくさん しどじ)

香川県さぬき市志度1102



平賀源内の出身地として知られる志度（現在のさぬき市）にある古刹で、謡曲「海女」のモデルとなった悲恋物語をその縁起に残しています。

奈良時代、唐の皇帝から宝珠が送られてきたのですが、志度の沖で舟が難破し、竜神に宝珠を奪われてしまいました。その珠を取り返すために都から来た藤原不比等と一人の海女が恋に落ちます。二人の間に生まれた息子・房前（ふささき）の立身出世を願って、海女は海中に潜り宝珠を取り返したのですが、竜神によって命を奪われてしまいました。史実とされる系譜とは異なりますが、不比等が海女を供養したこの寺は、後に房前によって堂宇が整備され、現代にその名残りを伝えています。

## 大学との共同研究の内容が海外の書籍で紹介されました！

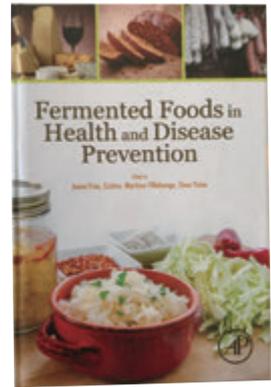
2016年に発売された洋書「Fermented Foods in Health and Disease Prevention」(Academic Press)は、発酵食品の健康と疾病予防への効果を紹介した学術誌です。野菜の発酵食品や、調味料、ヨーグルト、チーズなどさまざまな発酵食品の健康効果を紹介しています。このなかの「 $\gamma$ -アミノ酪酸(GABA)を豊富に含む発酵食品」の章で、野菜に豊富に含まれるGABAの働きに関する研究として、静岡大学との共同研究の成果が紹介されています。

The effects of GABA-containing vegetables on the cardiac autonomic nervous system have been studied in young people (Okita et al. 2009) and the results highlighted the benefits of GABA on sympathetic nerve activity.

心臓の自律神経系に対するGABA含有野菜の影響は若者で研究させており、その結果は交感神経活動に対するGABAの利点を強調した。

静岡大学との共同研究の内容は2009年に学術誌に「Effects of vegetable containing gamma-aminobutyric acid on the cardiac autonomic nervous system in healthy young people.」として発表されたものです。有機ケール100%の粒状青汁が、血圧を上昇させる交感神経の活性化を押さえる可能性を示唆しており、遠赤青汁V1でGABAを関与成分として、機能性表示食品を開発しようとしたことのきっかけの一つとなっています。

(この論文はPubMedで“Takaoka Terumi”と入力すると検索できます。)



## 安心・安全をお届けしています。

にんにくの圃場に入ると驚きだらけです。こんなに土が軟らかく、温かいのかと。私の家も兼業ではありますが、農業をしていましたので畑作業の経験はありました。土にも触ったことはありましたが、この温かさは正直驚きです。

入社以来、有機栽培や土づくりについて学んできましたが、改めてそのすごさを実感しました。栄養豊富な土で育ったにんにくはプリプリで、すぐにでもかぶりつきたい気持ちでした。皮を剥くと、その白さにまたビックリ。見とれてしまいます。これから百貨店での販売にも参りますが、自社農場で育った素材の瑞々しさ、美味しさを自分の感動を込めて、お客様にお伝えしていきたいです。よろしく願います。

(営業部 久保)



営業部久保です。作業は暑くて大変でしたが、美味しいにんにくがたくさん取れました。楽しみにしてください。



ガブリッと食べたいくらい、美味しそうに育ったにんにく、早くお届けしたいです。

収穫祭の朝はスッキリと晴れ、豊作を願う私の心そのもので清々しく、豊作への期待も膨らみ、ヤル気に満ちあふれていました。

もともと扇状地で水はけがよいこの土地は、畑にするには水が貯まらない土地です。しかし、水が少ないと植物は危機感を感じ、水を得るために根を深く深く伸ばします。大地の栄養を吸収し、ひと冬を越えて育った有機にんにくは掘り起こすと、とても瑞々しくてずっしりとしています。

「ああ、この感触、この感動こそお客様にお伝えしなければ」とお客様の笑顔が浮かんで来て、ワクワクしました。

これからも安心・安全な素材から生まれる『本物の健康食品』を全国のお客様にお届け出来る様に取り組んで参ります。どうぞご期待ください。

(営業部 白石)



## おたより広場 にメッセージをお寄せください!!

〒791-0311 愛媛県東温市則之内甲2225番地1 ※お寄せいただいたお便り等は、その他の  
遠赤青汁株式会社 目的で使用することはありません。

有機健康つうしんおたより広場 係あて mail:aojiru@enseki.com

